

まだまだ規模は小さいながらも、売上高41億6200万円（前期比18・2%増）、営業利益11億5500万円（同50・3%増）と収益性の高い事業としても魅力があると言える。

続く今期も創立100周年を迎える2024年に向け、中長期戦略「長期ビジョン100」の実現、その第一ステップとして「中期経営計画2020」の達成

## マルカキカイ

7594・東1

### 産機、建機とも好調で8期連続増配 技術商社への脱皮でさらなる飛躍へ

マルカキカイ（7594）が好調に業績を伸ばしている。株価は2月に2568円の高値を示現した後

マルカキカイの業績	
■2017年11月期 通期連結業績	
売上高	523億6300万円 (9.8%増)
営業利益	18億9400万円 (14.3%増)
経常利益	20億9500万円 (22.5%増)
純利益	12億3500万円 (32.9%増)
■2018年11月期 通期連結業績予想	
売上高	570億円 (8.9%増)
営業利益	22億円 (16.1%増)
経常利益	24億円 (14.5%増)
純利益	15億円 (21.4%増)

※（ ）は前期比

下落に転じたが、ここにきて堅調な動きを見せている。PERは12倍前後に過ぎず、業績好調に加え、連続増配という材料もあるだけに、一部平均PER15倍は最低でも期待していいだろう。

同社は産業機械と建設機械を2本柱にグローバルに展開して業績を上げていく。機械専門商社だが、2017年11月期も内外の景気回復傾向の中、中期経営計画の推進などで別表の通り、前期比増収・2ケタ増益で売上高は上場来最高記録を

更新した。経常利益の伸びがいいのはその前の期に発生した為替差損1億4200万円の解消も寄与した。

産業機械部門が国内で自動車関連業界向け機械設備が伸長。アメリカで工作機械や射出成形機が伸長。これまで低迷していたタイ、インドネシアも自動車関連が、マレーシアで部品販売が伸びるなど中国、アジア地域も増加したことから売上高432億3100万円（前年同期比10・3%増）、営業利益25億9600万円（同15・2%増）と増収。また、建設機械部門も低迷していた建設用クレーン需要が回復したことや基礎機械やレンタルなども順伸したことから売上高90億2600万円（同7・4%増）、営業利益3億8000万円（同18・4%増）と増収。さらに、その他も保険代理店業務が伸びて売上高1億6000万円（同3・9%増）、営業利益4300万円（同78・7%増）と全部門が伸びて収益拡大に寄与した。注力している海外市場は売上高比率49・0%から、49・5%に上昇した。

要は今後増えていくと思われ、営業力強化のために東証2部への市場変更をチャレンジしました。更なる人材確保を図るため、今後は東証1部に加えて時価総額200億円を目指します」（野村芳光社長）

## ノムラシステムコーポレーション

3940・東2

### 直接契約増加が業績拡大に貢献 東証1部への昇格にも意欲的

3月1日、システムコンサルティング企業のノムラシステムコーポレーション（3940）が、ジャスダックから東証2部への市場変更を果たした。東証1部への昇格にも意欲的であり、プライム（直接契約）の増加に伴い足元の業績も好調なことから今後も注目していきたい。

同社は、ERP（業務を統合管理する基幹システム）で世界トップの独・SA

P社のグローバル認定資格を保有するITコンサルタントを176名（2017年12月31日現在）を擁している。プロジェクトの成功率は100%。2017年12月期の経常利益率が16・0%、自己資本比率85・0%と高収益率に加えて安定した財務基盤が特徴だ。

受注の方法は2通り。一つは元請け経由の案件に対し、ERP導入の専門コンサルタントによるサービスを行

う「FIS」。単純な下請けではなく、大規模なシステム構築を行う際に、全体の指揮を執る元受けからSA P社のERPスペシャリストとして招聘されるもの。これが売上の約7割を占める。

もう一つは、クライアント企業に直接提案して受注する「プライム」だ。既存取引先からの継続案件受注が伸びていることに加え、新規受注も順調だ。売上高に対するプライムの割合は29・0%（前期比9・9%増）となった。



野村芳光社長

ノムラシステムコーポレーションの業績	
■2017年12月期 通期業績	
売上高	25億3400万円 (3.8%増)
営業利益	4億700万円 (30.3%増)
経常利益	4億500万円 (29.9%増)
当期純利益	2億9900万円 (53.7%増)
■2018年12月期 通期業績予想	
売上高	25億9000万円 (2.2%増)
営業利益	4億1800万円 (2.6%増)
経常利益	4億1800万円 (3.2%増)
当期純利益	2億8500万円 (4.5%減)

※（ ）は前年同期比

中期には競争力獲得に向けた体制構築や、経常利益率15・0%の維持、プライムの売上高比率34・0%以上まで拡大することを目標に掲げる。また、「ビッグデータ分析」「AI」「IoT」「クラウド」との組み合わせによって、既存のERPから次世代ERP「S/4HANA」への普及に注力していく考え。「S/4HANA」の需

業務用大判プリンタの最大手であり、3Dプリンタの開発・販売、システム・ITソリューション事業を展開するMUTOHホールディングスが、2月13日に2018年3月期3Q決算を発表。前年同期比で売上高は微減したが、営業利益と経常利益、四半期純利益とも増益となった。一時2300円台をつけた株価はこの発表を受けて上昇し、3月1日終値では2548円と、さらに上値を狙う勢いを見せている。

大判インクジェットプリンタは、ポスター・看板印刷にとどまらず、シルクなどの生地印刷するテキストやガラスなどに印刷するインクやガラスなどに印刷するインクなど多岐にわたる。市場での競争激化の中、同

社ではヨーロッパへのマーケティング施策を一本化、成長分野であるインクストーリー市場向けに多品種少量のオンデマンド印刷に最適な大判インクジェットプリンタ「VJ1626UF」などの拡販に努め、直近では、素材を選ばない作画で定評のあるマルチパスインクのバージョンアップ搭載の「VJ1628MP」を発売した。加えて、今年度中に投入予定の新製品が数機種控えているとの情報もあり、物流改革などの推進他、経営体制の抜本的改革・強化に向けた製品ラインアップ強化に余念がない。

また、3Dプリンタ分野でも強化に余念がない。造形後に体温程度の温度で変形が可能で、かつ抗菌効果のある3Dプリンタ素材の

MUTOH ホールディングスの業績	
■2018年3月期 第3四半期連結業績	
売上高	146億8400万円 (0.5%減)
営業利益	7600万円 (前年同期1000万円)
経常利益	1億8500万円 (22.5%増)
四半期純利益	4億6000万円 (前年同期△5900万円)
■2018年3月期 通期連結業績予想	
売上高	211億円 (3.0%増)
営業利益	4億2000万円 (129.4%増)
経常利益	4億2000万円 (110.5%増)
純利益	2億5000万円 (—)

※（ ）は前期比